

中学校武道授業実施報告

実施日：2021年9月17日（金）22日（水）29日（水） 計3回

場 所：東根市立大富中学校（山形県）

対 象：3年生 24名 × 2クラス

指導者：緑川 寿幸（山形県空手道連盟 副理事長）

加藤 葵（ 同 理事 ）

2021年9/17(金)、22(水)、29(水) 山形県東根市立大富中学校において空手道体験授業を行ないました。昨年、武道推奨モデルの一貫として同校1年生を対象に体験授業を実施しており、生徒へアンケートを行なった結果、高評価を得たことで同校から再び山形県空手道連盟へ依頼があり2度目の実施に至りました。

指導に当たっては緑川 寿幸 普及指導委員長、加藤 葵 強化委員の2名が担当しました。二人は昨年も体験授業に携わっており、限られた時間の中で工夫が必要なこと、コロナ感染予防対策も講じて実施しなければいけないことなどを考慮し、内容について当日まで検討しながら授業案を作成しました。

また、大富中学校の担当教諭と授業内容に関する打ち合わせを繰り返し行いました。その中で、「単なる体験だけの授業にたくない」「護身により日常的に関わる生きる体験をさせたい」「礼儀、素直さがどの様に社会に生きるのかを身に着け肌で感じてもらいたい」「なにより実技を体験する生徒本人達が楽しさを感じてもらえたら」といった生徒たちへの熱い思いをお聞きしました。また校長先生からは、「今年の3年生は、昨年から続く新型コロナウイルス感染症の影響によって登校を自粛することが多々あった」と伺いました。生徒たちがみんなで楽しみ、体験してよかったと感じてもらえるよう、中学校生活の思い出の1ページになる体験授業を行うため、学校の先生方と繰り返し話し合いました。

学校側の熱意・思いと要望を受けて、今年は3週に渡って全3日間による体験授業の実施となりました。

1日目 空手道の歴史、概要説明や基本動作による実技内容を行いました。まず座礼、立礼による礼法の意義を理解して、目を閉じることで感情などをコントロールし、心を落ち着かせることを感じてもらいました。実技を主体的にとの要望がありましたので、基本の立ち方、受け、突き、蹴り、2人組になっての新聞紙割りを行いました。新聞紙割りは、きれいに割れるたびに歓声を上げ、楽しみながら突く感覚と威力を体感している生徒たちの笑顔がとても印象的でした。

2日目 前回の基本動作の復習と新たに護身術を加えて、今回の体験授業の最終目標である「基本形の習得」へ向けての実技を行いました。護身術については、腕や体を捕まれた場合の体・手を返しながらか回避できることに興味を示していました。形は、全空連発刊の「空手道の手引き」にある基本形を行いました。挙動ごとの技の意味は勿論ですが、立ち方の種類と変化、運足・演武線、目付、残心などは、他の運動ではあまり体験しない動作であり苦勞しているようでした。しかし、真剣な眼差しで覚えようと必死に指導を受けていた生徒たちの様子が新鮮で、素直さが垣間見えた時間でした。

3日目 これまでの実技を通し習得成果の発表とそれに対する評価を行いました。これは学校側からの要望によるものです。生徒たちには、基本動作（座礼、立礼、基本の立ち方、受け、突き、蹴り）と基本形をグループごとに演武をしてもらい、それについての評価を行いました。実技試験とあって、生徒たちは緊張感が漂う重い雰囲気になると思っていたのですが、授業開始前から特に指示しなくても自分たちで試験に向けて練習している姿が印象的でした。また、2日目に実施した「ゆっくりした動作の形演武と通常の速さでの形演武」を担当教諭が動画撮影して、GIGA スクール構想で学校へ配備されたタブレット端末を活用し、個々に復習用として視聴できるようにしてくれていたようです。最新の ICT によって、学習環境が大きく変化していることと、それらを生徒たちが活用して効果的に学習を進めていることに感心しました。

実技試験本番前に、男女混合によるグループ分けをした上で、自主練習の時間を設けたのですが、互いに教えあったり、気合の入れるタイミングを合わせたりとグループ毎の特徴が見られました。中でも女子生徒が率先して声掛けのリーダーとなったグループもあり、お互いを尊重し、協調性を持って練習する姿が感動的でした。

最終日はグループでの実技試験となったことで互いに助け合い、士気を高め合い、協調し実施されていたことへの達成感を感じてもらえたものと思います。日を重ねるごとに生徒たちの姿が変わってくるが見られたことを嬉しく思うとともに、体験授業を通じ、指導を行なった私たちの方が多くのことを学ばせて頂いたと感じました。

3回の体験授業終了時、生徒たちからは、「東京オリンピックでの空手の採用で益々空手道に興味を持った」「グループで行う形を見て動作がそろうとすごくかっこいい。時間があればもっと練習したい」「形はすべて受けから始まるので“空手に先手なし”という言葉が理解出来た」といった感想があり、空手道をもっと体験したいとの意気を感じ取ることが出来ました。

学校の先生方からは「次は本番でも使えるような形や組手にも挑戦させたい」「1・2年も含め全学年へも展開したい」「必修科目へ繋げていきたい」「他校へも推奨したい」といった感想があり、既に先を見据えた考えとイメージをされているようでした。

今回の体験授業を通じて、空手道がオリンピックで採用されたこと、またメディアに取り上げられる機会が増えたことで、多くの方々に中学校武道授業に適していると認識されつつあることを感じました。今後多くの中学校で空手道が武道必修科目として選択され、継続されることを願うとともに、我々もその一翼を担っていくことを決意新たにします。

山形県空手道連盟

普及指導委員長 緑川 寿幸